

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

学校名	公立大学法人福井県立大学
設置者名	福井県

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
経済学部	経済学科	夜・通信	85	170	0	255	13		
	経営学科	夜・通信			0	255	13		
生物資源学部	生物資源学科	夜・通信		0	50	135	13		
	創造農学科	夜・通信		0	70	155	13		
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科	夜・通信		0	43	128	13		
	先端増養殖科学科	夜・通信		0	40	125	13		
看護福祉学部	看護学科	夜・通信		0		82	167	13	
	社会福祉学科	夜・通信				112	197	13	
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.fpu.ac.jp/campus_life/prospective_students/d154018.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

学校名	公立大学法人福井県立大学
設置者名	福井県

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.fpu.ac.jp/about/trustees.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株)ミツヤ 代表取締役会長	R4年4月1日 ～ R7年3月31日	大学運営全般
非常勤	(株)福井銀行 取締役会長	R4年4月1日 ～ R7年3月31日	大学運営全般
非常勤	神戸芸術工科大学 副学長	R4年4月1日 ～ R7年3月31日	大学運営全般
非常勤	(株)福井新聞社 代表取締役社長	R4年4月1日 ～ R7年3月31日	大学運営全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	公立大学法人福井県立大学
設置者名	福井県

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。		
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究委員会にて、シラバス作成ガイドラインを審議 		
10～11月	教員にシラバス作成依頼	
2月上旬	シラバス作成期限	
4月	大学ホームページに掲載	
授業計画書の公表方法	大学ホームページ (https://svc3.jim.fpu.ac.jp/campusweb/slbsrchrch.do)	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。		
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の単位修得の認定は、試験の可否によって行う。試験は主として筆記試験によって行われるが、実験、実習やレポート提出等により行われる場合もある。 ・なお、出席時間数が、当該授業科目の全時間数の3分の2に満たない場合には、原則として、単位は与えられない。 ・試験の成績は、100点満点の60点以上を合格とし、授業科目所定の単位が与えられる。成績評価と点数の関係は、次のとおり。 		
判定	達成度	評点
優	科目の到達目標に十分達している	80点以上
良	科目の到達目標に達している	70点以上80点未満
可	科目の到達目標に最低限度達している	60点以上70点未満
不可	科目の到達目標に達していない	60点未満
	履修辞退	評点なし

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・ 本学でのG P Aの計算式は次のとおり

点 数	G P	参考 (本学評価)
80点以上	$\frac{\text{点数} - 55}{10}$	優
70点以上		良
60点以上		可
60点未満	0	不可

$$G P A = \frac{\text{履修科目のG P} \times \text{単位数}}{\text{総履修登録単位数}} \text{の総和}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

履修の手引き (オリエンテーション時に全学生に配布)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・ 本学における卒業認定に関する方針の具体的な内容は以下のとおり
 本学に原則として4年以上在学し、別に定める授業科目を履修し、経済学部にあつては134単位以上、生物資源学部生物資源学科にあつては130単位以上、生物資源学部創造農学科にあつては124単位以上、海洋生物資源学部にあつては124単位以上、看護福祉学部看護学科にあつては130単位以上、看護福祉学部社会福祉学科にあつては136単位以上修得した学生については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。
- ・ 本学では、上記卒業認定に関する方針により、学生の修得単位数や教授会の意見を基に、卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページ
 (https://www.fpu.ac.jp/about/disclosure_d/fil/gakusoku.pdf)
 履修の手引き (オリエンテーション時に全学生に配布)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

学校名	公立大学法人福井県立大学
設置者名	福井県

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.fpu.ac.jp/about/plan.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.fpu.ac.jp/about/plan.html
財産目録	
事業報告書	http://www.fpu.ac.jp/about/plan.html
監事による監査報告(書)	http://www.fpu.ac.jp/about/plan.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和6年度 年度計画 対象年度:令和6年度)
公表方法: http://www.fpu.ac.jp/about/plan.html
中長期計画(名称:第3期中期計画 対象年度:令和元~6年度)
公表方法: http://www.fpu.ac.jp/about/plan.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.fpu.ac.jp/about/plan.html https://www.fpu.ac.jp/fd/fd.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.fpu.ac.jp/about/d152308.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	経済学部
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者選抜要項等)	
<p>(概要)</p> <p>経済学部は、経済・経営に関する専門的な知識を有し、情報活用能力と国際的感覚を持った人材を養成するとともに、研究成果を地域社会へ開放することを目的とする。そして、多様化し変動著しい現代の経済社会および企業経営の在り方や法則、地域経済・企業や各国経済の特質を明らかにし、あるべき経済政策および経営を追求する研究を推し進める。</p> <p>特に教育については次のことに心がけて行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究に基づいて教育の水準を高く維持すること。 2. 教員自身が研究に打ち込む姿を学生に見せるとともに、その成果を学生に伝えるように努めること。 3. 学生の知識水準に注意を払い、学生が吸収しやすいよう教授法についても研究を重ねること。 4. 多様な学生の需要に応じるため、教員集団の多様性を保ち、学生に自発的な選択の余地を与えるとともに、個々の教員も多様な見方があることを示すよう努めること。 	
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html)	
<p>(概要)</p> <p>経済学部は、経済学科または経営学科に 4 年以上在学し、以下に示す資質、知識および能力を培い、卒業に必要な所定の単位数以上を修得した学生に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済の運動や企業の行動についての古今の学説を知り、社会科学についての教育を深め、経済社会の仕組みを知る。 2. 現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける。 3. 自らの頭で考え、自らの進路を切り開くことができる自立した個人に成長する。 	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html <u>1</u>)	
<p>(概要)</p> <p>経済学部では、経済学・経営学における基礎的な理論を理解するとともに、一般教育において基礎科目として修得した情報処理能力の専門知識への応用、各国の経済事情など国際的感覚の養成に努めることにより、経済・経営の分野において顕著な「情報化」・「国際化」に的確に対応できる人材の養成を目指す。このような教育を実現するために、次のような方針でカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1 年次向けに経済学・経営学を学修していく上で基本となる科目、2 年次向けに経済学・経営学関係の基礎的な理論等、3、4 年次向けに応用的な科目を配置し、体系的なカリキュラムを構築する。 2. 経済学科、経営学科とも「専門科目」、「専門関連科目」の 2 つの科目群からカリキュラムを構成し、専門性を高めると同時に、専門に関連する幅広い分野の科目を履修できるようにする。 3. 地域産業の発展に寄与することを目指すとともに、本県とのつながりの深いアジア諸国の経済・経営に関する科目を設け、特色あるカリキュラムを構築する。 4. 専門教育の中心の一つとして、2 年次前期に「基礎ゼミ」、2 年次後期に「外書購読Ⅰ」、3 年次に「演習Ⅰ」、4 年次に「演習Ⅱ」および「卒業論文」を設け、「ゼミナール方式」による一貫した少人数教育を実施する。 5. 学修成果の評価は、科目毎に成績評価の方法を設定し、シラバスに明示する。 	
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者選抜要項等、大学案内)	

<p>(概要)</p> <p>経済学部は、次のいずれかに該当する学力のある学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校で英語、国語、数学、理科、地理歴史・公民に関して十分な基礎学力を身につけた学生 2. 社会の仕組みや運動、企業の行動について興味を持ち、それらを知ることにより意欲的である学生 3. 経済学・経営学を学ぶことで、自分で考え自分で判断する力を身につけたいと考えている学生 4. 経済学・経営学について専門的知識を身につけ、それを将来就く職業に生かしたいと考えている学生

学部等名 生物資源学部

<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者選抜要項等）</p>
--

<p>(概要)</p> <p>生物資源学部は、生物資源にかかわる諸領域において以下の教育研究活動を推進することにより、地域社会、日本、世界の産業と文化の発展に寄与し、もって人類の将来にわたる福祉の向上に貢献します。この使命を達成するために、次の三つの基本理念を掲げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 時代の進展に即応した学術文化の高度化の推進と、それに寄与できる人材の育成 2. 自主的な真理探究の精神、広い視野および豊かな創造力を有し、基礎的および専門的な知識と技術を備えた実践力ある人材の育成 3. 学術情報の地域社会への開放
--

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html ）

<p>(概要)</p> <p>生物資源学部の教育目標に従い、次の素養・能力を身につけた学生に学士の学位を与える。</p> <p>生物資源学科</p> <p>倫理観・社会性:科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に考え、生物資源の利用に当たって、責任ある方向付けを行うために必要な基礎的素養を身につけている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学の基礎力:生命科学の幅広い理解と応用のために必要な基礎学としての数学と自然科学の知識および情報技術を身につけている。 2. 専門能力:生物資源の資源採取・加工・利用や自然界の保全に関する専門知識ならびにそれを応用する上で必要な知識を身につけている。 3. 情報収集能力・コミュニケーション能力:急速に変化する生命科学とそれにかかわる技術に対応するために必要な情報を収集でき、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につけている。 4. 課題解決能力:生命科学にかかわる技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設定・解決する能力を身につけている。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけている。 <p>創造農学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技術・経験:食・農・環境に関する広範囲な知識と技術を習得していると共に、経営戦略やマーケティング等を学び、経営感覚や新展開能力・開発能力を身につけている。 2. 情報収集能力・コミュニケーション能力:急速に変化する技術に対応するために必要な情報を収集でき、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につけている。 3. 課題解決能力:技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設定・解決する能力を身につけている。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけている。
--

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.htm>
1）

（概要）

生物資源学部は、責任ある社会人として必要な教養と倫理観を身につけるとともに、価値観のゆらぐ現代社会において変化するものとしなないものを見極め、現象の本質に科学的に迫り、生物資源にかかわる諸問題、特に持続可能な社会の構築に関して、最新の専門知識と先端技術を用い適切な対処ができる人材を育成します。そのための教育を行う方針を次のように定める。

生物資源学科

ディプロマポリシーで掲げた人材育成のために、一般教育科目、専門科目を体系的に編成している。

1年次では、多面的で柔軟な思考に基づく教養と語学力を養うために、一般教育科目を重点的に配置する。科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に考え、責任ある方向付けができるための倫理観・社会性の重要性について教育する。また、自然科学の基礎力を養うために、専門領域への導入的な科目（数学、生物、化学）と情報演習科目を配当する。

2年次以降は、学年の進行に伴い、専門領域科目に重点を移す。生物資源を利用した生物資源の資源採取・加工・利用や自然界の保全に関する専門知識およびそれを応用する上で必要な知識を身につける教育を行う。分析化学、有機化学、生体高分子化学、栄養化学など化学的素養を習得する講義科目群と、生化学、微生物学、植物病理学、遺伝学、環境生物学などの生物学的素養を習得する講義科目群を配当する。これを受け、講義内容の理解を深めるための実験と演習を重視し、重点的に配当する。グループ単位の実験を通してコミュニケーション能力の向上を図る。技術者倫理、社会体験としての企業見学とインターンシップに関する講義や実習を配当することにより、社会とのかかわりを学ぶ。全ての講義、実験、演習、実習を通して、自ら必要な情報を収集し課題を解決する能力、論理的な報告書が作成できる能力を育成する。自然科学の基礎力に裏付けされた情報収集能力、コミュニケーション能力、課題解決能力、文書作成能力等を総合し、未知の問題を解決する能力の育成のために、少人数教育による卒業研究を実施する。生物資源学部は、卒業研究を4年間の集大成として位置付ける。

各科目の学修成果の評価は、科目ごとにその方法を設定しシラバスに明示する。

創造農学科

ディプロマポリシーで掲げる人材育成を達成するために、一般教育科目、専門科目を体系的かつ適切に編成している。

1年次では、多面的で柔軟な思考に基づく教養と語学力を養うために、一般教育科目を配置する。さらに、専門にかかわる体験学習を1年次からスタートします。外部講師の講義や見学学習も配置し、体験を通じた自主的な学びを重視する。

2年次以降は、食・農・環境に関する広範囲な講義に加え、さらに体験学習を強化する。体験を通じて持つ知的な好奇心や知識欲に応えうる広範囲な講義を配置する。そのために、公設試験研究機関、農業法人・民間企業、生産者、6次産業者等との関係を密にし、実践者や研究者を招き、または、出向いて、地域性の高い課題からグローバルな課題の実践教育を行う。全ての講義、演習、実習を通して、自ら必要な情報を収集し課題を解決する能力、論理的な報告書が作成できる能力を育成する。未知の問題を解決する能力の育成のために、少人数教育による卒業研究を実施する。また、学生の希望により、学外における卒業研究も可能とする。生物資源学部は、卒業研究を4年間の集大成として位置付ける。

学修成果の評価は、科目ごとに成績評価の方法を設定し、シラバスに明示する。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者募集要項等、大学案内）</p>
<p>（概要） 生物資源学部の教育目標に従い、求める学生像や、大学入学までに身につけておくべき教科と科目に関して、次のように定める。</p> <p>生物資源学科 微生物から高等動物まで多様な生物に興味と関心を持ち、分子から生物、さらに生態系にまで及ぶ広範な対象を取り扱う科学分野の勉学に強い意欲を持って取り組むことができる学生、生物資源にかかわる知識と技術をもとに、地域社会、日本、世界の人々の幸せのために将来働く意欲と希望を持った学生を求める。生物資源学を大学で学ぶためには、高等学校等において、国語、英語、数学、生物、化学の基礎学力の習得が必要である。</p> <p>創造農学科 「食と農と環境」に興味と関心を持つとともに、これに関連する様々な体験をしたいという意欲があり、将来、関連する分野で活躍しようという意欲と希望を持つ学生を求める。創造農学科で学ぶためには、高等学校等における幅広い基礎学力が必要です。さらに、自分の考えを自分の言葉で表現でき、他者と適切にコミュニケーションがとれるよう努力することが重要である。</p>

<p>学部等名 海洋生物資源学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者募集要項等）</p>
<p>（概要） 海洋生物資源学部は、海洋生物資源にかかわる諸領域での教育・研究活動を通じて、時代の進展に即応した学術文化の高度化の推進、自主的な真理探究の精神と広い視野および豊かな創造力を有し専門的な知識と技術を備えた実践力ある人材の育成、および地域社会への学術情報開放の推進を目的としている。これにより、地域社会、日本および環日本海地域はもとより、世界の産業と文化の発展に寄与し、もって人類の将来にわたる福祉の向上に貢献することを目指している。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html）</p>
<p>（概要） 教育課程編成に基づく教育課程を履修し、所定の単位を修得した学生に対して、次の基準に照らして学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然と社会の共存にかかわる課題を多面的に考察し、適切に対処するための方策を立案できる。 2. 科学・技術の進歩の中で、絶えず新たな知識と技術の修得に努め、問題の適切な解決方法を選択して実践できる。 3. 社会のニーズに応えながら、新たな価値を創造して持続的な成長につなげることができる。 4. 地域・国際社会の一員として責任感を持って他者と協働しながら、豊かな人間性を醸成できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html <u>1</u>）</p>
<p>（概要） 教育目標に掲げる能力を身につけるため、日本海沿岸特有の地域性を踏まえた特色あるカリキュラムを次の方針に基づいて編成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界と地域の歴史や文化あるいは経済や社会の課題を多面的に考える能力を身につけるため、一般教育科目を配置する。 2. 初年次において、大学での学修スキルと自主的な課題探究姿勢を身につけることを目的と

<p>して「海洋生物資源学フィールド演習」を開講するとともに、専門科目の修得に必要なとなる数学と自然科学の基礎学力を向上させるための専門基礎科目を配置する。</p> <p>3. 2年次において、海洋生物資源学を体系的に学修するための基礎となる専門応用科目（必修科目）を集中的に配置する。さらに、特定の専門領域に偏らずに、海洋環境の保全、海洋生物資源の育成と利用およびそれらの社会科学基盤について学際的・総合的に学ぶことができるように、2年次から3年次にかけて専門応用科目（選択科目）を配置する。</p> <p>4. 講義を通して修得した知識を応用する能力を身につけるため、実験・実習科目を配置する。特に、豊かな自然と文化に恵まれた若狭地域をモデルとして、山川里海の相互関係や科学・技術が地域に果たす役割を体験を通して理解するための科目を開講する。</p> <p>5. 4年次に各研究室に所属して取り組む「卒業論文」と「専攻演習」では、担当教員の個別指導を通して、計画を作成して実践する能力と結果を検証して発表する能力を身につける。科目毎に成績評価の方法を設定し、シラバスに明示する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者募集要項等、大学案内）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育目的を達成するため、海洋生物資源学部は次のような学生の入学を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海洋環境や海洋生物資源を取り巻く様々な問題に強い関心を持ち、科学・技術を通してその解決に貢献する意欲を有する学生 2. 海洋生物資源学を学ぶために必要となる理科、数学および英語などの基礎学力を有し、自主的な学習習慣を身につけている学生 3. 他者と協力しながら学ぶためのコミュニケーション能力を身につけている学生

<p>学部等名 看護福祉学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者募集要項等）</p>
<p>（概要）</p> <p>看護福祉学部では、人権尊重と擁護を根幹とするヒューマンケアの理念に基づき、専門的知識・技術の開発にかかわる研究を推進する。さらに、社会情勢の変化に伴う課題への実践的な取り組みを通して、人々の健康的な生活の創造に寄与する。教育においては、個性豊かで創造的な人間性を育むとともに、看護および社会福祉の専門的知識と技術および倫理観に裏付けられた実践力を持って、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材を育成する。さらに社会およびその時々の個人・家族のニーズに応じた高度なサービスを普遍的に提供するために、専門職として自己研鑽を積むことができる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>看護福祉学部にて4年以上在学し、次に示す資質、知識や能力を培い、卒業に必要な所定の単位数以上を修得した者に学位を授与する。</p> <p>看護学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の尊厳、人権擁護の立場から人々の健康生活を支援できる能力を修得する。 2. 人々を全人的に理解するための豊かな感性を持つ。 3. 科学に裏付けられた専門的知識と技術を用いて、人々の個別性に合った看護を主体的に創造できる能力を修得する。 4. 保健、医療、福祉との連携・協働を図り、個人および社会のニーズに応じた看護を実践できる能力を修得する。 5. 自ら探求する態度を身につけ、将来にわたり専門職として看護を発展させていくための研究・教育・管理能力の基礎を有する。 <p>社会福祉学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳重視、人権擁護及び社会正義の立場から人々の生活を支援するための、全人的

教養と普遍的な社会福祉の価値観、思想及び倫理観を有する。

2. 人々に共感するための感性と、人々の生活やその困難を環境との関連から理解するための思考力・判断力・表現力・創造力・コミュニケーション力を有する。
3. 科学に裏付けられた専門的な知識と方法を身につけ、それらを統合して人々の個別のニーズに応じた社会福祉に関する支援方法、サービスの開発、政策提言を主体的に考案できる能力を有する。
4. 時代の変化と国際的な視点を踏まえ、新たな福祉・保健・医療の課題を把握し、学際的な多職種連携を図りながら、個人、家族及び社会のニーズに応えられる基礎的な技術を有する。
5. 社会福祉学を探究する姿勢と態度を身につけ、専門職を目指して社会福祉を深化、発展させていくための研究が行える基礎能力を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.htm>
1）

（概要）

看護学科

看護学科はヒューマンケアの理念の下に、人々の健康生活を支援できる専門的人材を育成する教育課程が求められる。本教育課程では大学の理念、教育目標および看護福祉学部理念・目的、教育目標を実現するため、以下の6項目を教育課程の編成方針（CP;カリキュラム・ポリシー）として定め、体系的で適切な教育課程を編成する。

1. 全人的教養を身につけるため「一般教育科目」を初年次に配置する。
2. 看護と社会福祉それぞれの専門性と保健・医療・福祉の課題を理解するため、社会福祉学科との「共通関連科目」を1・2年次に配置する。
3. 専門基礎科目は、看護に必要な専門的知識を身につけるため、看護の対象である人々の「健康・疾病・障害の理解」と、人々が生活する「社会の理解」の科目で編成する。
4. 専門科目には「看護の基礎」を基盤に、看護の対象の健康レベルや療養の場に対応した「看護の対象・場の理解と実践方法」と「看護の実践」を配置する。看護の基礎的な知識と技術を修得するとともに、多様な場で様々なライフサイクルと健康レベルの人々を対象に保健・医療および福祉職と連携や協働をしながら、個人と家族、地域社会のヘルスニーズに対応した看護を実践できる力を身につけられるように編成する。
5. 専門科目の「看護の発展」ではリーダーシップやマネジメント能力、研究の基礎能力、将来にわたり社会のヘルスニーズに対応した看護を発展させる能力を養う科目を段階的に学べるよう編成する。
6. 選択によって所定の科目を受講した者には保健師の国家試験受験資格、養護教諭一種免許の資格を得ることができるように科目を配置する。

（どのような教育方法を実施するか）

1. 少人数教育を通して、看護およびその対象である人間と生活に対する理解を深め、人々の多様なニーズに対応できる知識と技術を修得できるよう支援する。
2. 学修の過程において、学生が相互に思考を刺激しあえるよう、グループワークやディスカッションの機会を多く設ける。
3. 早期に人々が生活する地域に出向き、人々との関わり（コミュニケーション）を通して、人々の健康と生活（暮らし）、生活環境、地域社会とのつながりを理解できる授業を行う。
4. 情報通信技術（ICT）を活用した先端的な演習を通して、多様な事例から専門的知識と技術を修得できるよう支援する。
5. 保健師課程では事例を用いた演習を通して、地域の健康課題の予防や解決に必要な事業化や社会資源の開発、システム化・施策化能力を強化する。

（学習成果をどのように評価するか）

科目ごとに成績評価の方法を設定しシラバスに明示する。科目責任者である教員（シラバスの筆頭者）はシラバスに示した基準に基づき評価を行う。

社会福祉学科

社会福祉学科はソーシャルワークの原理、理論及び実践に基づき、人々が抱える生活課題に

取り組み、ウェルビーイングを高めるために、人々や社会構造に働きかけることのできる専門的人材を育成する教育課程が求められる。本教育課程では大学の理念、教育目標及び看護福祉学部の理念、目的及び教育目標を実現するため、以下の6項目を教育課程の編成方針（CP;カリキュラム・ポリシー）として定め、体系的で適切な教育課程を編成する。

- 1.全人的教養を身につけるため「一般教育科目」を初年次に配置する。
- 2.社会福祉と看護それぞれの専門性と福祉・保健・医療の課題を理解するため、看護学科との「共通関連科目」を1・2年次に配置する。
- 3.社会福祉の基盤知識とソーシャルワークの価値や倫理の基礎を身につけるため、「専門科目」の中でも「社会福祉学概論」「社会理論と社会システム」「ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ」などの基礎的科目を初年次に配置する。そして、地域社会で直面する多様な生活のしづらさと、それに直面する人々の回復や成長及び自立を目指す支援のあり方等を理解するため、「専門科目」の中でも「ソーシャルワーク論Ⅲ」「地域福祉論」「障害者福祉論」「高齢者福祉論」「精神保健福祉の原理」など社会福祉諸領域に関する科目を1・2年次に配置する。
- 4.地域共生社会の実現に必要な個人、家族から地域社会までを通底した国内外のソーシャルワークに関する理論と実践を統合的に理解するため、「専門科目」の中でも「共生社会論」「社会的起業論」「保健医療と福祉」「社会福祉管理運営論」など実践展開力を養成する科目を3・4年次に配置する。
- 5.「総合部門」では、ソーシャルワーク実践に求められるコーディネート能力やファシリテーション能力、研究の基礎能力など、人々の抱える生活課題を個人と社会との関係から捉える総合的な課題解決能力を養う科目を段階的に学べるよう編成する。
- 6.所定の科目を受講した者には社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格、高等学校教諭一種免許状（福祉）の資格を得ることができるよう科目を配置する。

（どのような教育方法を実施するか）

- 1.学生の個性豊かで創造的な人間性を育むため、さまざまな専門分野の教員による少人数方式で学修を支援する。
- 2.学修の過程において、学生が相互に思考を刺激しあえるよう、グループワークやディスカッションの機会を多く設ける。
- 3.地域に出向き、住民との双方向の対話（コミュニケーション）を通して、人々の暮らし、生活環境、地域社会とのつながりを理解できる授業を行う。
- 4.情報通信技術（ICT）を活用した先端的な演習を通して、多様な事例から専門的知識と技術を修得できるよう支援する。
- 5.専門職養成（社会福祉士・精神保健福祉士）に係る実習関連科目では、ソーシャルワーカーとして必要な価値規範や倫理を実践的に理解するとともに、支援の展開過程に用いられる知識や技術の基礎能力が獲得できるよう、地域の専門職・関係機関と連携して授業を行う。

（学習成果をどのように評価するか）

科目ごとに成績評価の方法を設定しシラバスに明示する。科目責任者である教員（シラバスの筆頭者）はシラバスに示した基準に基づき評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html> 入学者募集要項等、大学案内）

（概要）

看護学・社会福祉学は人々の健康と生活に直接かかわる学問です。看護福祉学部では、社会の動向や人間に関心を持てる人、他者の考えや独自性を尊重できる人、経験を通して自分自身を振り返ることのできる人、さらに主体的に学修に取り組む熱意のある人の入学を求める。高等学校においては、人々とのコミュニケーションに必要な国語や英語の基礎学力を高めること、さらに、社会、地域、人々の生活および人の身体やこころの仕組みを理解できるような科目を意識的に学修することを望んでいる。

【看護学科の求める学生像】

看護学科では主体的に学修に取り組む熱意のある人の入学を求める（主体性）。

- 1.専門的知識と技術を学ぶための基礎学力を身につけている（知識、理解力）。
- 2.社会の動向や人間に関心をもち、人々の保健・医療・福祉の発展に貢献したいという目的意識をもっている（関心、目的意識）。

3. 人としての基本的な倫理観を備え、他者の価値観・個別性・多様性を尊重することができる（倫理観、協調性、判断力）。

4. 自分自身の行為・態度を振り返り自己を向上させることができる（思考力、表現力）。

【看護学科の入学前に学習しておくことが期待される内容】

高等学校段階までの国語、数学、英語 3 科目について基礎学力が幅広く十分身につけていることが必要です。そのうえで生物や倫理などの人を理解できるような科目を意識的に学修することを期待する。

【社会福祉学科の求める学生像】

社会福祉学科では主体的に学修に取り組む熱意のある人の入学を求める（主体性）。

1. 社会福祉の理論や実践について学ぶための基礎学力を身につけている（知識、理解力）。

2. 社会の動向や人間に関心をもち、多様な人々が豊かに生活できる社会の実現に貢献したいという目的意識をもっている（関心、目的意識）。

3. 人としての基本的な倫理観を備え、他者の価値観・個別性・多様性を尊重することができる（倫理観、協調性、判断力）。

4. 自分自身の行為・態度を振り返り自己を向上させることができる（思考力、表現力）。

【社会福祉学科の入学前に学習しておくことが期待される内容】

高等学校段階までの国語、英語 2 科目の基礎学力が幅広く十分に身につけていることが必要である。そのうえで、地域社会における人々の生活を理解できるような科目を意識的に学修することを期待する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/organizational.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
経済学部 経済・経営学研究科	—	17人	11人	人	3人	人	31人
生物資源学部 生物資源学研究科	—	16人	14人	人	1人	人	31人
海洋生物資源学部 生物資源学研究科	—	15人	14人	人	1人	人	30人
看護福祉学部 看護福祉学研究科 健康生活科学研究科	—	21人	11人	人	13人	人	45人
学術教養センター	—	10人	7人	人	人	人	17人
情報センター	—	1人	3人	人	1人	人	5人
国際センター準備室	—	1人	1人	人	人	人	2人
地域経済研究所	—	5人	3人	人	人	人	8人
地域連携本部	—	1人	人	人	人	人	1人
恐竜学研究所	—	3人	2人	人	1人	人	6人
キャリアセンター	—	人	1人	人	人	人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		0人					0人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.fpu.ac.jp/kanri/list-sections/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教育研究委員会にFD部会を設置し、授業評価アンケートに基づく授業改善、FD研修会の実施、FD報告書の作成など全学的な取り組みを実施。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済学部	200人	234人	117.0%	800人	916人	114.5%	人	人
生物資源学部	70人	83人	118.6%	290人	313人	107.9%	5人	2人
海洋生物資源学部	80人	89人	111.3%	290人	306人	105.5%	人	人
看護福祉学部	80人	88人	110.0%	320人	351人	109.7%	人	人
合計	430人	493人	114.7%	1,700人	1,886人	110.9%	5人	2人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済学部	209人 (100%)	0人 (0.0%)	201人 (96.2%)	8人 (3.8%)
生物資源学部	72人 (100%)	24人 (33.3%)	47人 (65.3%)	1人 (1.4%)
海洋生物 資源学部	49人 (100%)	11人 (22.4%)	34人 (69.4%)	4人 (8.2%)
看護福祉学部	86人 (100%)	2人 (2.3%)	82人 (95.3%)	2人 (2.3%)
合計	416人 (100%)	37人 (8.9%)	364人 (87.5%)	15人 (3.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
経済学部	223人 (100%)	201人 (90.1%)	15人 (6.7%)	7人 (3.1%)	人 (%)
生物資源学部	78人 (100%)	68人 (87.2%)	10人 (12.8%)	0人 (0.0%)	人 (%)
海洋生物 資源学部	54人 (100%)	45人 (83.3%)	5人 (9.3%)	4人 (7.4%)	人 (%)
看護福祉学部	84人 (100%)	78人 (92.9%)	5人 (6.0%)	1人 (1.2%)	人 (%)
合計	439人 (100%)	392人 (89.3%)	35人 (8.0%)	12人 (2.7%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)	
・教育研究委員会にて、シラバス作成ガイドラインを審議	
10～11月	教員にシラバス作成依頼
2月上旬	シラバス作成期限
4月	大学ホームページに掲載

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)	
・本学における卒業認定に関する方針の具体的な内容は以下のとおり	
本学に原則として4年以上在学し、別に定める授業科目を履修し、経済学部にあつては134単位以上、生物資源学部生物資源学科にあつては130単位以上、生物資源学部創造農学科にあつては124単位以上、海洋生物資源学部にあつては124単	

<p>位以上、看護福祉学部看護学科にあつては130単位以上、看護福祉学部社会福祉学科にあつては136単位以上修得した学生については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。</p> <p>・本学では、上記卒業認定に関する方針により、学生の修得単位数や教授会の意見を基に、卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	134単位	有・無	(1~3年)年50単位
	経営学科	134単位	有・無	(1~3年)年50単位
生物資源学部	生物資源学科	130単位	有・無	年50単位
	創造農学科	124単位	有・無	年50単位
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科	124単位	有・無	各学期24単位
看護福祉学部	看護学科	130単位	有・無	—
	社会福祉学科	136単位	有・無	—
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページで公表

<http://www.fpu.ac.jp/access/index.html>

http://www.fpu.ac.jp/pamphlet/fpu_pamphlet.html

など

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	535,800円	188,000円 (県外者は 282,000円)	4,660円	※その他：学生保険
	経営学科			4,660円	
生物資源学部	生物資源学科			4,660円	
	創造農学科			4,660円	
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科			4,660円	
	先端増養殖科学科			4,660円	
看護福祉学部	看護学科			5,370円	
	社会福祉学科			4,660円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>各学科の学年担任や相談担当の教員、および教育・学生支援部の職員により学生の修学を支援している。修学に関する相談や指導のほか、学生生活や授業料、奨学金などについて支援している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p>
<p>(概要)</p> <p>キャリアセンターを設置し、常駐する就職アドバイザーによるアドバイスや自己分析、進路調査、ガイダンス、セミナー、企業説明会などの機会と、学生に必要な具体的かつ有用な情報を提供し、就職活動を的確にバックアップしている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p>
<p>(概要)</p> <p>保健・学生相談センター保健管理室を設置し、保健師が常駐している。毎年4、5月に健康診断を実施し、支援が必要な学生には、学校医の健診、カウンセラーによるカウンセリング等を実施している。診断結果により精密検査が必要な学生には医療機関への受診を指導している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：研究活動においては、研究発表会や公開講座、各種展示会への出展のほか、研究シーズ集の発行、大学ホームページで公表 http://www.fpu.ac.jp/about/disclosure.html</p>
--